

発言者（敬称略）	発言内容
<p>Q = 市民</p> <p>A = 事務局</p>	<p>Q 最終処分場の掘り起こしから 10 年程度埋め立てができると試算があるが、その根拠はあるか。</p> <p>A 廃プラスチックの焼却を大前提として考えています。最終処分場に搬入しているごみの廃プラスチック類を除いた部分を埋め立てると想定して、年間 2500 立米を 10 年間で 2 万 5000 立米埋め立てていくことになります。現状の半分程度減ると考えていますが、さらに減る可能性はあります。</p> <p>Q 現在の最終処分場に埋め立てている廃プラはどの程度か。</p> <p>A ごみ質の割合は容量ベースとなっていますので、燃やすとすぐに小さくなります。なので、それほど量が増える感覚はなく、燃焼効果が上がります。</p> <p>Q 現在の年間処理量は 130% となっているが、それに 4 割の廃プラが加わると、焼却炉は問題ないか。</p> <p>A 基幹改良を行えば能力が上がりますので問題ありません。</p> <p>Q 焼却炉が 2 炉あるが、修理ではなく他に新設するのか。</p> <p>A 片方ずつ交互に新しく交換します。</p> <p>Q 2 炉がフル稼働している状況だが問題ないのか。</p> <p>A 1 基取り替えられれば問題ありません。</p> <p>Q 交換するのに期間はどの程度かかるのか。</p> <p>A 工事が完了するまでに 3 年と考えています。</p> <p>Q 覆土はどこから運ぶのか。</p> <p>A 新空港建設時の土がありますので、それを使います。</p> <p>Q 掘り起こして分別するのか。</p> <p>A 今回はコンテナにそのまま積んで運びます。</p> <p>Q 1 年で掘り起こせるのか。</p>

発言者（敬称略）	発言内容
Q=市民	A 2万5000立米だと早くて半年だと聞いています。
A=事務局	Q どこに運ぶのか。
	A 民間の処分場がありますので、最終的には入札となります。
	Q これは確実に実行されるのか。
	A はい、クリーンセンターでは燃やせませんので、島外処理する方向で進めたいと思います。
	Q ダイオキシンについてだが、2年前の委員会で沖縄全体での平均的な量の資料があったが、1箇所だけ高い数値があり、測る時の状況で変化する不安定な部分があるが、県平均の10分の1以下のクリーンセンターがあったが、その理由にごみ質が安定していて、生ごみの割合が少なかった。行政の努力で同じような数値にすることが可能となっている。もちろん、市民の協力も必要だが、行政がどれだけ努力できるかが重要となるのではないか。
	A 今回の基幹改良では廃プラを燃やしますので、これが助燃材の代わりとなり、温度を安定させて燃やすことができます。そうすると、現在の10分の1以下になると想定しています。廃プラを燃やすことでダイオキシン類がかなり減ります。
	Q 24時間体制か。
	A 停止せずに連続稼働している状況になります。
	Q ごみ量を多くするのか、1基の処理能力で稼働し続けるのか。
	A ごみが少ない時には、1炉で焼却します。連続運転になります。
	Q 24時間ということは、連続運転という認識で良いか。
	A 立ち上げ時にはごみを投入せずに炉の温度を上げて、その後にごみを投入する方法も行っています。
	Q とにかく、あらゆる努力をしてダイオキシン類の発生を抑えて欲しい。プラスチック類を燃やすことを市民が変に理解して、リサイクルできるプラスチックを燃やすと誤解されないようにして欲しい。

発言者（敬称略）	発言内容
<p>Q = 市民</p> <p>A = 事務局</p>	<p>住民の中には分別が面倒くさいという人もいる。安全だから燃やすという考えではなく、二酸化炭素の問題もある。ごみ処理を焼却に頼っているのは日本だけで、二酸化炭素の問題が付きまとうので、そこも含めて今後について考えていくべき。</p> <p>A 啓発活動も平行して行いたいと考えています。</p> <p>Q 生ごみの 90%は水分で、水道水には塩素が含まれているのでダイオキシンの発生源のひとつとなる。焼却灰にもダイオキシンがかなり含まれており、バグフィルターで除去しているが、それでもかなり多く含まれている。これも減らさなければならない。島内に埋めることも含めて、市民の協力を得て最大限努力して欲しい。</p> <p>牛のげっぷにはメタンが含まれているが、メタンは温暖化の原因となる二酸化炭素よりも影響が大きいので、堆肥センターが国の補助で大きくした。メタン対策として国の事業で行って、第三セクターにした時に、ラインが動かなくなかった。頭数が多い企業は堆肥化しないといけませんが、島内の業者は費用が掛かるのでしていない。本当は赤字でもしなければならぬ。このラインを使えば事業系の生ごみも堆肥化できる。それを周辺の地域に還元すると良い。石垣市の生ごみ量は県内でも突出していることと、分別に対する不安がある。分別については、早く変更しても問題ない。その結果によって、周辺地域に廃プラの焼却についての協定の改定を求められると思う。20 年前から石垣市は後手後手となっているので不安がある。不安を解消するのは環境課として大切な仕事だと思う。数値が基準以下だとしても猛毒だという認識を持って欲しい。</p> <p>A 今後は先手先手で進めたいと思います。</p> <p>Q 市民にごみや分別について考えるきっかけを作って欲しい。焼却炉の温度が上がったときに水道水を使っていたと思うが、それは今後しないようお願いしたい。行政に対する取り組みの緩さを感じる。</p> <p>最終的に 3 地区の公民館の役員で協定についての話をすると思うが、行政の施設やごみに対しての取り組みを見て判断すると思う。新しい分別方法は今より大変になると思うが市民の協力が必要となる。</p> <p>A 基幹改良後にはもやすごみに廃プラを混ぜることになると思います。</p> <p>Q リサイクルできるプラスチックは分けるか。</p> <p>A はい、今まで通りの分別となります。もやさないごみがかなり減ることになると思います。</p>

発言者（敬称略）	発言内容
<p>Q = 市民</p> <p>A = 事務局</p>	<p>Q それを平行して市民に理解してもらって、実践や指導をしていく必要がある。それができれば安心して公害防止協定が変えられると思う。</p> <p>Q 焼却炉を使用する期限は決めているか。</p> <p>A 改良した場合のメーカーによると耐用年数は 15 年と想定されていますが、それを基幹改良して、5 年ほど延ばすして 20 年程度が一般的になっています。</p> <p>Q 次の計画を早く立ててもらわないと協力できない。</p> <p>A 次の最終処分場の建設と同時にある程度想定しながら動きます。</p> <p>Q その計画がはっきり見えないと不信感に繋がる。</p> <p>A 現状では次の最終処分場の建設場所は決まっていないので、決まった段階で焼却施設の場所の想定もできるようになります。</p> <p>Q 後手後手にならないように計画通りお願いします。</p> <p>A 最終処分場の余力が約 10 年となっていますので、すぐに用地の確保を行って、10 年目には新しい最終処分場ができるように取り組みます。同時期にクリーンセンター建設のスケジュールになると思います。 ただ、建て替えの時期については今の段階では明確に答えられませんので、施設が使えるうちは使い続けたいと考えています。</p> <p>Q 費用はどの程度が予想されるか。</p> <p>A 100～120 億円となっています。</p> <p>Q 広域で建設をするべきだと思うがどう考えるか。</p> <p>A 竹富町を含めた広域については、頭に入れています。</p> <p>Q その計画についても今から話し合うべきでは。</p> <p>A 徐々に詰めていきたいと考えています。</p> <p>Q それが見えたら安心します。</p>

発言者（敬称略）	発言内容
<p>Q＝市民</p> <p>A＝事務局</p>	<p>A やはり 10 年も経つと社会情勢なども変わりますので、徐々に話を固めていきたいです。ごみの増減や中国のプラスチックごみの輸入の停止があり、日本に戻ってきているごみの状況を見ながら次の焼却施設について考えなければなりません。もし、島内で焼却しなければならなくなれば、燃やす必要がありますし、プラスチックの再生利用が進むのであれば、それに併せた施設になると思います。今の段階ではどうなるかはつきりとは言えませんが、現時点では焼却施設は 100～120 億円と試算していますが、それにはプラスチックを燃やし、熱を回収して他の電気や熱エネルギーに変えて、発電や温水が利用できる複合的な施設となります。</p> <p>現在では、都会の中心に建設できる時代となっていますので、過去にあった公害の発生はしないという想定で作られていますので、次期施設についてはそのような循環型社会に併せたものを目指したいと考えています。</p> <p>前年度に一般廃棄物処理基本計画の見直しを行いまして、5 年後に次の 10 年間の基本計画を策定しますので、その中で明記するようにしたいと考えています。</p> <p>Q 次年度に西表島が世界自然遺産に登録される可能性があるらしいが、そうになると環境問題について厳しくなる。竹富町のどこに焼却炉を置くのかという問題もあるので今のうちに広域でのごみ処理について考える必要がある。入島税などをごみ処理に使うこともできると思うので今のうちから必死になって考えて欲しい。</p> <p>ヨーロッパなどでペットボトルをデポジットで処理しているが、広域で協力して行くとやりやすいのではないか。過去に石垣市でも以前に検討はしていた。市民のモラルに頼っているとごみだらけになる。</p> <p>Q 掘り起こし後は 10 年間で埋立地が満杯になるという話だが、環境課では最終処分場の予定地を何年目までには決定したいというような具体的な予定はあるか。</p> <p>A 今から 3 年後までには決定したいと考えています。</p> <p>Q またギリギリになるまで伸ばすと同じようなことになる。変わる可能性があるのは仕方がないが、定期的に進捗状況を報告して欲しい。</p> <p>A 大きなことについては新聞等でも報道されると思います。</p> <p>Q 島外にごみを搬出するが、どこに運ぶのか。民間の処分場で可能なのか。</p> <p>A 本来は石垣市で処理しなければならないごみだと思います。民間の処分場で</p>

発言者（敬称略）	発言内容
<p>Q = 市民</p> <p>A = 事務局</p>	<p>は可能です。東日本大震災の頃から災害ごみ処理のための処分場ができています。そのため、県内ではありませんが数箇所あります。</p> <p>Q 環境税等を導入して、ごみや生活排水等の改善を図って欲しい。</p> <p>A 沖縄県で環境税について考えているようですが、市も一緒に関わって行く必要があります。</p> <p>また、これから協定書の改定をしたいと考えていますが、代表者を立てていただきたいと考えています。ある程度の叩き台はこちらで用意しますので、それから整理したいと考えています。</p> <p>Q その前に目に見える形で我々を安心させて欲しい。</p> <p>Q 5年後の基本計画策定時には公募等で市民も参加しますか。</p> <p>A はい、ありえると思います。</p> <p>Q 我々の3地区とは別の枠で市民も呼んで欲しい。もっと時間があれば市民に対していろいろな対策ができたのではと思うので、これから時間を掛けてごみ分別の意識向上等の広報活動をして欲しい。先ほどの環境税の話だが、広域で連携しないと入島税の二重取りの可能性もあるので、将来的には環境問題について関係各課と連携して石垣市が一体となる必要があると思う。</p> <p>A これから何度も話し合いを繰り返しながら、皆様が納得できるような形に仕上げたいと思います。本日はありがとうございました。</p>